

湯河原町真鶴町でのプラごみ等資源化減量化に向けた取り組みについて

湯河原町と真鶴町では、ごみの減量化とプラスチックごみ等の資源化を推進するため「湯河原町真鶴町プラごみ等資源化減量化検討委員会」を組織しました。

令和8年度は4回開催を予定しており、令和8年5月25日（月）に第1回検討委員会を次のとおり開催しました。

1 委員構成（全11名）

委員長		フェリス女学院大学 グローバル教養学部 国際社会学科 地球社会・環境専攻 佐藤 輝 教授
委員	湯河原町	湯河原町商工会 会長
		一般社団法人湯河原温泉観光協会 会長
		湯河原温泉旅館協同組合 会長
		湯河原町区長連絡協議会 会長
		湯河原町民生委員児童委員協議会 会長
	真鶴町	真鶴町自治会連合会 会長
		真鶴町自治会連合会 顧問
		真鶴町商工会 事務局長
		一般社団法人真鶴町観光協会 専務理事事務局長
		真鶴町老人クラブ連合会 副会長

2 第1回検討委員会の概要

《その1》湯河原町・真鶴町のごみの現状と課題等について

両町はごみ排出量が多く、ごみの減量化やリサイクルを進めていく必要がある。そのために、ごみ量の削減ために3R活動を推進し、町民の皆さんにも積極的に取り組んでいただけるよう働きかけが重要となる。

《その2》プラスチックごみの分別リサイクルについて

プラスチックごみのリサイクルを進めていくため、プラスチックごみ種類やプラスチックの資源循環させる仕組みなどについて情報共有する。

《その3》食品ロスについて

湯河原町、真鶴町の可燃ごみにおいても、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品などいわゆる「食品ロス」が多く含まれており、ごみ量削減の重要なテーマとなるため、食品ロスの状況について紹介する。



〜〜 委員からの主なご意見 〜

- 資源ごみの売却益を「見える化」すれば住民の協力意識向上になる。
- リユースの仕組みを導入してはどうか。
- 週3回の可燃ごみのうち1回をプラスチックごみの収集に振り替えるなど検討してはどうか。
- 町民の皆さんは状況を知らない。ごみの状況についてお知らせしてほしい。
- プラスチックを可燃ごみで捨てることに罪悪感を覚える町民もいる。早期実施をお願いしたい。
- 分別の効果や目標を示した方が、住民のモチベーションが上がると思う。